

令和6年度 とやま新時代創造創造プロジェクト学習推進事業
実施報告書【学校課題実践校用】

学校番号	44
学校名	富山県立しらとり支援学校

学校の現状と課題	本校では、児童生徒の体づくりや運動意欲を引き出すため、ミュージック・ケアやダンス、パラスポーツを体育の授業に取り入れている。児童生徒の多くは、それぞれの活動を楽しみ、積極的に活動するが、好きなことや取り組む場所が限られ、教師の支援がないと自分から実践しようとするのは少ない。今後は、余暇活動の充実の観点から、運動以外の多様な活動にも触れる場を増やして児童生徒の興味関心を広げるとともに、学校で学んだことを多くの人と楽しんだり、休日に家庭で楽しんだりするなど、児童生徒が主体的に活動を継続できるようにすることが課題である。	
テーマ(特色)	文化的、体育的な活動に親しみ、主体的に取り組もうとする児童生徒を育成する。	
設定した「テーマ」の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 各学部、児童生徒の実態に応じて、ダンスや音楽療法、スポーツ等の専門家の指導を受ける授業を計画した。 小学部では、音楽療法とダンスの講師の指導内容を他の授業に取り入れた。中学部では、講師によるダンス動画を教員で共有し、体育と余暇活動の時間に活用した。また、キンボールの授業を他のグループにも取り入れ、生徒の運動意欲を高めた。高等部のフライングディスクとダンスは体育の授業で継続して取り組んだ。 年度内に授業で作成した動画と購入した楽器などの用具を全校で共有し、次年度の指導に継続して活用できるように周知する。 体育的な活動に主体的に親しむ機会は増えたが、運動以外の活動のニーズが低く、実施できなかった。 家庭や放課後等デイサービスとの連携は実施しなかった。 	
実施内容(具体的に記入する)	<ul style="list-style-type: none"> 運動以外(美術、音楽、自立活動など)の授業も含めて内容を検討したが、これまでの体験の積み重ねや児童生徒の親しみやすさから、主体的に取り組む姿が期待されるダンスやスポーツの授業を設定した。 小学部1～3学年:ミュージックケア 各学年1回ずつ ・小学部4～6学年:ストレッチ、リズムダンス1回 中学部A1グループ:キンボール2回 ・中学部A2、Bグループ:ストレッチ、ダンス 各2回ずつ 高等部A、Bグループ:フライングディスク各1回ずつ ・高等部Cグループ:ダンス1回 主に体育の授業で継続して取り組み、動画や道具を共有して他に自立活動や休憩時間、集会などの場面で積極的に活用した。 意欲がある生徒には、卒業後のスポーツ教室や大会を紹介し、運動の継続を勧めた。 	
取組による成果(プロジェクト学習推進の観点から)	<ul style="list-style-type: none"> 講師による授業を通して、児童生徒は、音楽に合わせて体を動かす楽しさや友達と競ったり協力したりする喜びを味わうことができた。教師にとっては、子どもの興味・関心を高め、意欲的に取り組むための内容や手立て、道具の使い方を学ぶことができた。小学部では、初めてのことが苦手な児童が笑顔で取り組んだり、全身で運動を楽しんだりする姿が多く見られた。中学部では、生徒自身がキンボールスポーツを楽しみ、その魅力を学級の教師に伝えたりチームの仲間と作戦を立てたりするなど対話が生まれた。高等部では、フライングディスクの授業を毎年継続して実施しており、生徒の技術が高まり、達成感を味わうことができた。運動が苦手な生徒の多い授業では、講師の言葉や音楽に合わせて楽しく踊る生徒が増えた。 今年度は、講師の方が児童生徒の特性を理解して、音楽や動きのバリエーションを工夫されたことにより、児童生徒の意欲が高まり、「楽しかった」「もっとやりたい」という主体的な姿につながったと考える。さらに、児童生徒が考えたり、話したりする場を教員が意識して授業を行うことで、主体的・対話的な深い学びにつながった。 さまざまな活動に主体的に取り組もうとする意欲や態度の育成には成果が見られた。余暇活動の充実につながるという面では、運動以外の活動体験を広げること、家庭や関係機関のニーズを把握し、必要に応じて学校の取り組みを伝えることなどが今後の課題である。 	
対象者(学年・人数など)	小学部全学年(118名)、中学部全学年(87名)、高等部全学年(70名)	
実施実績	4月	
	5月	各学部で授業計画
	6月	↓
	7月	講師の選定、日程調整
	8月	
	9月	グループごとに授業を実施、その後の授業で継続
	10月	↓
	11月	家庭等との連携
	12月	↓
	1月	↓
2月	まとめと振り返り	
3月		